

## 不定数量形容詞「多い」「少ない」の意味論的・統語論的考察

著者	中東 靖恵
出版者	長野県ことばの会
引用	ことばの研究 8: 54-67(1996)
発行年月日	1996-10-31
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10091/00022410">http://hdl.handle.net/10091/00022410</a>

# 不定数量形容詞「多い」「少ない」の意味論的・統語論的考察

中東 靖恵

はじめに

この小論の目的は、不定数量形容詞「多い」「少ない」を中心に、その類義語「たくさん」「少し」などを取り上げ、それらの意味論的・統語論的考察を行い、それぞれの特徴を明らかにすることにある。考察にあたっては、文科系大学生 50 名に行ったアンケート資料<sup>1)</sup>を用いる。

## 1. 不定数量形容詞「多い」「少ない」の一般的解説—英語の不定数量

形容詞 ‘many, much, (a) few, (a) little’ と比較して—

### 1.1 日本語と英語の不定数量形容詞

不定数量形容詞「多い」「少ない」の一般的解説を英語の不定数量形容詞 ‘many, much, (a) few, (a) little’ と比較して簡単に述べる。

英語では「数」と「量」を分けて、一般に数の多い場合には ‘many’ を、量の多い場合には ‘much’ を用いるが、日本語では数・量ともに「多い」を用いる。同様に、英語では一般に数の少ない場合には ‘(a) few’ を、量の少ない場合には ‘(a) little’ を用いるが、日本語では数・量ともに「少ない」を用いる。

### 1.2 連体修飾語的用法と叙述用法

日本語の形容詞は一般的に、連体修飾語的用法・叙述用法の両方で用いられる。

- 1) 赤い花。
- 2) あの花は赤い。

しかし、「多い」「少ない」は通常叙述用法で用いられ、これらの形容詞とは異なり連体修飾語的用法では用いられない。

- 3) 昨日、パーティーに来た人は多い。
- 4) 昨日、パーティーに来た人は少ない。
- \* 5) 昨日、多い人がパーティーに来た。
- \* 6) 昨日、少ない人がパーティーに来た。

つまり、「多い」「少ない」は通常、名詞を修飾する用法を持たない。それらの代わりに、それぞれ、「多くの」「少しの」が用いられる。

7) 昨日、多くの人がパーティーに来た。

8) 昨日、少しの人がパーティーに来た。

「多くの」は<「多い」の連用形「多く」+「の」>から成るが、「少しの」は<副詞「少し」+「の」>であり、「少ない」の連用形+「の」による「少なくの」という語形はない。この点で、「多い」「少ない」は互いに並行しない。

なお、「雨が多い日」「人が少ない街」などの場合、「多い」「少ない」は名詞句の中で述語的に用いられており、これらは<「雨が多い」+「日」>、<「人が少ない」+「街」>であるので、5) 6) の用法とは統語的に異なることは言うまでもない。「雨の多い日」「人の少ない街」となっても同様である。

日本語の不定数量形容詞に対し、英語の不定数量形容詞は通常、連体修飾語的用法で用いられ、叙述用法では用いられない。

9) Many people came to the party yesterday.

10) Few people came to the party yesterday.

\*11) People who came to the party were many.

\*12) People who came to the party were few.

## 2. 「多い」と「少ない」－類義語との意味論的・統語論的考察－

### 2.1 「多い」

ここでは、数量表現において「多い」とその類義語「多く」「たくさん」を取り上げて意味論的・統語論的考察を行う。

#### 2.1.1 連体修飾語的用法

連体修飾語的用法では、通常「多い」は用いられず、「多くの」「たくさん」の用いる。

\*13) 多い人が集まった。

14) 多くの人が集まった。

15) たくさんの人が集まった。

しかし、以下のような条件を与えることによって、「多い」「多くの」「たくさん」

の使用には変動が見られるようになる。

A. 比較の基準を伴う場合

?16) 前回よりも多い人が集まった。

17) 前回よりも多くの人が集まった。

18) 前回よりもたくさんの人が集まった。

13) も 16) もともに有効文ではないが、後者では「前回よりも」という比較の基準を設けることにより、○をする人数はかなり増える。(○の人数は、13) では 50 名中 3 名であり非文であるが、16) では 17 名となり、「?」が付くようになる。)

ただし、修飾される名詞によっては、「多い」は比較の基準を伴って用いることができる。

\*19) 多い収入で生活する。

20) 君よりも多い収入で生活する。

この点については、あとでやや詳しく述べる。

B. 比較の基準に数値を規定する語を伴う場合

21) 前回よりも 3 人多い人が集まった。

\*22) 前回よりも 3 人多くの人が集まった。

\*23) 前回よりも 3 人たくさんの人が集まった。

「3人」という数値を規定する語を伴うと「多い」は使えるようになる。そして一方、「多くの」「たくさんの」は使えなくなる。

C. 叙述用法に準じる場合

24) 多い日には 100 本以上の電話がある。

\*25) 多くの日には 100 本以上の電話がある。

\*26) たくさんの日には 100 本以上の電話がある。

この場合、「多い」は使えるが、「多くの」「たくさんの」は使えない。

24) について、私は次のように考えるが、いかがであろう。

24') 電話が多い。

24'') その日には 100 本以上の電話がある。

この 2 つの文の接合形

電話が多いその日には電話が 100 本以上ある。

の \_\_\_\_\_ の部分が剰余部分として省かれ、24) が成立したのである。つまり、「多い」

は「日」を修飾しているのではなく、省かれている「電話が」の述部を構成している  
と見るのである。つまり、「多い」のは「日」ではなく、「電話」である。これは今  
までの連体修飾の例とは異なるのである。このような視点に立って、私はこの種の用  
法を仮に「叙述用法に準じる場合」と命名した。

森田 (1993) には「多い」について次のような記述がある。

「多い」は「多いときには……」「多いほうがいい」のように「とき、ばあい、  
うち、ほう、こと、の、はず」などの形式名詞を続ける場合によく用いられる。

(p. 219)

森田氏はこれを「形式名詞を続ける場合」としてまとめられたが、これらは私の言う  
「叙述用法に準じる場合」として処理できるのではないかと思う。また、森田氏は24)  
のように形式名詞でない語を続ける場合はどう考えられるのであろうか。

森田氏があげた「とき」「ばあい」をとる。

「とき」

27) 多い時には電話が 100 本以上かかる。

これは「電話が多い」と「その時には電話が 100 本以上かかる」の接合形において  
\_\_\_\_\_の部分が省かれたと見れば解決される。

「ばあい」

28) 多い場合には聴衆が 1000 人も集まる。

上と同様に、「聴衆が多い」と「その場合には聴衆が 1000 人も集まる」の接合形にお  
いて\_\_\_\_\_の部分が省かれたと見る。

次に「はず」「の」について考える。

「はず」

29) 多いはずがない。

これは「～が多いはずがない」の「～が」にあたる部分が省かれていると見る。例え  
ば、

30) 蓄えが多いはずがない。

31) 聴衆が多いはずがない。

の \_\_\_\_\_ が省かれていると考えれば、やはり「叙述用法に準じる場合」として考えて  
よいと思う。

「の」

32) 多いのと少ないのとどっちがいい。

上と同様に、

33) 数が多いのと数が少ないのとどっちがいい。

34) 分量が多いのと分量が少ないのとどっちがいい。

の \_\_\_\_\_ が省かれたと見るのである。

最後に「ほう」を取り上げる。

35) 多い方を取る。

これについて、私は今のところ2つの考え方を持っている。一つは、上と同様に、

36) 金額が多い方を取る。

37) 数が多い方を取る。

の \_\_\_\_\_ が省かれたと見る観方である。もう一つは、「ほう」はもともと比較を前提とする語である。だから「多い方を取る」は、「少ない方よりも多い方を取る」という意味を表わしている。「比較の基準」を伴うことにより「多い」が用いられやすくなることは前に述べた通りである<sup>2)</sup>。

「ほう」について、どちらの考え方がより良いかの判断は保留するが、どちらによっても説明が可能であると思う<sup>3)</sup>。

Cの最後に、25) 26) がなぜ非文となるかについて簡単に述べる。25) 26) は上の考え方を援用すると次のような文の接合と考えられる。

\*25' ) 電話が多くだ。

25" ) その日には100 本以上の電話がある。

\*26' ) 電話がたくさんだ。

26" ) その日には100 本以上の電話がある。

つまり、2.1.2 で述べることから分かるように、25' ) 26' ) が非文であるので、その接合形から生まれる25) 26) も共に非文とならざるをえないのだと思う。

#### D. 部分を表わす場合

ある人に6人子供がいたとし、父親の病気の知らせに、その6人のうち5人が集まった場合を想定していただきたい。

\*38) 父親の病気の知らせに多い子供が集まった。

39) 父親の病気の知らせに多くの子供が集まった。

\*40) 父親の病気の知らせにたくさんの子供が集まった。

「多い」「たくさん」はいずれも使えないが、「多くの」は使うことができる。つまり、この場合「多くの」は「大部分の」という部分を表わすことができると言える。

### 2.1.2 叙述用法

叙述用法では専ら「多い」が用いられ、「多くだ」「たくさんだ」は用いられない。

41) 集まった人は多い。

\*42) 集まった人は多くだ。

\*43) 集まった人はたくさんだ。

なお、「もうたくさんだ」などに見られる程度を表わす「たくさん」はここでは扱わない。

## 2.2 「少ない」

ここでは、数量表現において「少ない」とその類義語「少し」を取り上げ、意味論的・統語論的考察を行う。

### 2.2.1 連体修飾語的用法

連体修飾語的用法では、通常「少ない」は用いられず「少しの」を用いる。

\*44) 少ない人が集まった。

45) 少しの人が集まった。

しかし、以下のような条件を与えることによって、「少ない」「少しの」の使用には変動が見られるようになる。

#### A. 比較の基準を伴う場合

46) この前よりも少ない人が集まった。

\*47) この前よりも少しの人が集まった。

「この前よりも」という比較の基準を設けることにより、「少ない」は使えるようになるが「少しの」は使えなくなる。つまり、「少ない」は「比較」を表わす意味特徴を有するのに対し「少しの」はそれを有しない。

「多い」では比較の基準を伴っても「人」を修飾できにくかったが、「少ない」は修飾することができる。その理由として、「多い」には「多くの」があるが、「少ない」には「少なくの」という用法がないためであると考えられる。この点で両者は並行していない。

B. 比較の基準に数値を規定する語を伴う場合

48) この前よりも3人少ない人が集まった。

\*49) この前よりも3人少しの人が集まった。

「少しの」はAの場合と同様使えないが、「少ない」はAの場合よりもさらに使いやすくなる。

C. 叙述用法に準じる場合

50) 少ない日には1本も電話がない。

\*51) 少しの日には1本も電話がない。

これは「多い」(2.1.1)のCの場合に準じるので、紙幅の都合上、ここでは幾つかの例をあげるのみで説明は省略に従う。

52) 少ない所でも200mm以上の降雨が予想される。

53) 少ない時には電話が1本もない。

54) 少ない場合には聴衆が50人もいない。

55) 少ないはずがない。

56) 少ないのがいい。

57) 少ない方を取る。

58) 少ない人でも月に15万円の収入がある。

D. ある種の名詞を修飾する場合

「少ない」は上のA, Bのような「比較の基準」を伴わない場合は、通常連体修飾語的用法で用いられないが、次に見る例文のように、修飾される名詞によっては用いられる場合がある。

59) 少ない収入で生活する。

60) 少しの収入で生活する。

61) 少ない資料で論文を書く。

62) 少しの資料で論文を書く。

この場合、「少ない」と「少しの」とでは若干意味の相違がある。「少ない」には「ある基準よりも少ない」という negative な意味が、「少しの」には「少ないけれどもいくらかはある」という positive な意味があるように思われる。そしてその関係は、英語の不定冠詞を伴わない few, little と、それを伴う a few, a little の関係に似る。つまり、「少ない」には「比較」の意味が含まれる。これは次の実例によっても妥当



であると思われる。

「少ない量でたくましく洗う」 (ライオン(株)洗剤「トップ」のCM)

「少ない煙でゴキブリを駆除」 (ゴキブリ駆除剤のCM)

「少ない材料でおいしい料理をつくる」 (料理番組)

「少ない投資で確実な利益と事業拡大」 (会社の広告)

「少ない緑を大切に」 (自然保護の広告)

「少ない資源を無駄なく有効に活用しよう」 (自然保護の広告)

これらに見られる「少ない」はいずれも、「以前よりも」「通常よりも」「いつもよりも」などの「比較の基準」を含んだ表現であると考えられる。

また、次の例文を比較されたい。

?63) 山火事で少ない緑が失われた。

64) 山火事で少しの緑が失われた。

63) では、○の数は半数であったので「？」としたが、63) 64) の両者を「使える」とした者に、その違いを尋ねたところ、63) は「もともと少なかった緑が失われてしまった」という意味に取れるのに対し、64) では、「(豊かだった森の) 緑の一部が失われた」という意味に取れるというコメントが幾人かから寄せられた。私もこの意見に賛成である。つまり、この場合「少し」には「部分」を表わす意味があると言える。

このような連体修飾語的用法で用いられる「多い」「少ない」について、仁田 (1980) があり、次のように述べている<sup>45)</sup>。

また、次のような場合も、「多イ」「少ナイ」の連体形による装定用法が可能な場合の例である。

(44) 少ナイ資源ヲ大切ニシヨウ。

(45) 少ナイ資料デ正シイ結論ヲ出スノハムズカシイ。

(46) 少ナイ金ヲハタイテ本ヲ買ッタ。

(47) 多イ資源ダカラト言ッテ無駄ニ使ッテハイケナイ。

これらは、全て文法的な連体結合の連語であると考えられる。これらの場合がなぜ文法的なのかを、非文法的な次の諸例と比べながら述べていくことにしよう。

(50) \*庭ニ多イ人ガ居ル。

(51) \*庭ニ少ナイ人ガ居ル。

(50)、(51)の「多イ」「少ナイ」は、主要語である「人」を人数の上から限定しているかっこうになる。人間が二、三人しか居ないとか、十五、六人も居るとかいったあり方は、主要語である「人」といった名詞が内在的に持っている諸々の性質、属性から引き出せるものではない。「人」が存在する時に、外在的（外延的）に帯びるあり方の一つのタイプである。（中略）それに対して、(44)から(49)〔筆者注(48)(49)はここでは省略〕は、そういった、主要語の名詞の内在的に有している性質・属性から引き出せないところの外在的なあり方といった観点からの限定ではない。たとえば、(44)について考えれば、主要語である「資源」が量といったカテゴリーに属する性質、属性を自らの内在的な性質、属性として含んでいるものとして扱われている。(44)の「少ナイ資源」は、〔埋蔵量ガ少ナイ資源〕とでもいった意味であり、「少ナイ」は、量といった観点からの限定であり、そして、その埋蔵量といった性質、属性は、主要語「資源」が内在的に有している性質、属性であるということになる。（p. 244～245）

仁田（1980）の説明によれば、「少ない資料」「多い資源」という連語が文法的であるのは、これらの「多い」「少ない」が「主要語の名詞の内在的に有している性質・属性から引き出せるもの」であるためであると言う。しかし、このような捉え方をもってしても、それだけでは解決できないものもある。仁田氏自身も「例外的な用法」として下の例文をあげている。

(59) (三ツノ中デ) 多イ方ヲ取ッテクダサイ。

(60) タダデサエ多イ人ガ週末ニハモット多クナル。

(61) 少ナイ店員デ能率的ナ経営ヲスル。 (p. 247)

そして「次のような言い方が可能である」として、次の例をあげている。

(59)' (三ツノ中デ) 数ノ多イ方ヲ取ッテクダサイ。

(60)' タダデサエ数ノ多イ人ガ週末ニハモット多クナル。

(61)' 数ノ少ナイ店員デ能率的ナ経営ヲスル。 (p. 247)

これらの場合、(59)' は可能としても、(60)' (61)' はやや不自然である。

(59)の「方」については「多い」(2.1.1)で述べた「叙述用法に準じる場合」とし

て説明されるので、ここでは繰り返さない。

(60)' (61)' について、これらは「比較」の意味を含んだ表現ではないかと考える。(60)には「平日と週末」という比較、(61)には「他の店よりも」のような比較の意味が込められていると見るのである。他にも、これらと似た例をあげておく。

65) 少ない髪を気にしている。

66) 少ないチャンスをものにしてメダルを獲得しました。

(NHKニュースーオリンピック)

67) 少ない議員提案条例

(朝日新聞「列島細見」, 1996年9月1日)

68) 秋版・少ない服をたくさんに見せる「8着」の揃え方

(『non-no』1996年10月号)

65) には「普通の人よりも」、66) には「通常よりも」、67) には「予想よりも」、68) には「他人(ひと)よりも」といった比較の意味が含まれていると考えられるだろう。

同じ「比較表現」であるが、次のような、英語で言う「最上級表現」の場合を見てみる。

69) 史上もっとも多い150カ国がこの大会に参加した。

70) 今回の選挙でもっとも多い議席数を獲得したのはB党だった。

71) この大会に出席したのは、史上もっとも少ない3カ国だった。

72) 今回の選挙でもっとも少ない議席数獲得に終わったのはD党だった。

この場合もやはり、「～の中でもっとも」という比較の基準を伴っているため、「多い」「少ない」を連体修飾語的用法で用いることができるのだと言える。

また、次の例文を見られたい。

73) 多かった人も、時間が経つにつれ次第に減り始めた。

74) 少なかった人も、だんだんと増え始めた。

上の両文はともに言うことができる。この場合、単に「多い」「少ない」が過去形「多かった」「少なかった」という形をとっているから使えるというのではなく、やはり「以前は多かった」あるいは「以前は少なかった」という比較の意味を含んでいるからだと言える。

以上から、連体修飾語として用いられる「多い」「少ない」は「比較」の意味を前提とした形容詞であると言えるのではないだろうか。

また、「多い」と「多くの」の違いについて、仁田氏は次のように述べている。

…つまり、(44)は、「資源」について、その種類の数についての限定ではなく、「資源」が自らの性質、属性の一つとして内包している量といった観点からの限定である。同様に、(45)から(47)の主要語では、いずれも量的側面といったものが、自らの性質、属性の一つとして扱われている。これらの「多い」「少ない」は、そういった主要語が内包している量的側面からの限定語である。これらが、数といった観点による限定でないことは、次の例文と、たとえば(47)などとを比べてみれば明らかである。

(54) 多クノ資源ヲ無駄ニ使ツタ。

(54)はたとえば石油や石炭や鉄といったふうに、数多くの資源を無駄に使ったという意味である。それに対して、(47)には、そんな意味はない。(p. 245～246)

仁田氏の説明によれば、

(47) 多い資源ダカラト言ッテ無駄ニ使ッテハイケナイ。

(54) 多クノ資源ヲ無駄ニ使ツタ。

において、「多い」と「多くの」は、前者が「量」を、後者が「数」を意味するとして区別されるとする。しかし、この説明には私は必ずしも賛成できない。

次の例を見ていただきたい。

75) 投票所には多くの人が投票に訪れた。

76) 中でももっとも多い票数を獲得したのはT氏だった。

上の両文はともに言えるのではないか。そして76)の「多い」は「票数」という「数」を修飾していると言える。

さらに、次の例文を見られたい。

77) タンカーの座礁で多くの原油が流出した。

78) 我々が生きていくためには、多くの水を必要とする。

これらの例において、「多くの」は、それぞれ、「原油」「水」を修飾している。「原油」や「水」は、「数」ではなく「量」で捉えられるべきものである。すなわち、「多

い」と「多くの」の違いは、修飾される名詞が「量」であるか、あるいは「数」であるかの違いではないと思われる。

以上をまとめると、「多い」「少ない」は、必ずしも量的側面だけから連体修飾しているのではなく、「数」と「量」の両者を連体修飾するものであると言える。また、「多い」と「多くの」の違いは、基本的には、上に述べたように、前者には「比較」の意味が、後者にはある一定数量の「大部分」の意味があり、それが両者を区別していると言えるのではないだろうか。

### 2.2.2 叙述用法

79) 残った人は少ない。

?80) 残った人は少しだ。

「少ない」は連体修飾語的用法では、幾つかの制限をもって用いられた。しかし叙述用法ではその制限はなくなる。一方、「少しだ」は叙述用法で用いられるとは言うものの、「少ない」に比べると、その自由さは失われる。(80)に○をつけた者は50人中25人にとどまり?が付く。)

また、連体修飾語的用法の場合と同様、比較の基準を伴うと「少しだ」は使うことができない。

81) 残った人は前回よりも少ない。

\*82) 残った人は前回よりも少しだ。

なお、「もう少しだ」などに見られる程度を表わす「少し」はここでは扱わない。

## 3. まとめ

以上の考察から、「多い」「少ない」とその類義語について次のようにまとめることができる。

### (1) 連体修飾語的用法

- ①「多い」「少ない」は、連体修飾語的用法では用いられることは少ないが、幾つかの条件下では用いられる。その条件は両者で必ずしも並行しない。
- ②「多い」「少ない」は共通の意味的特徴として「比較」という意義素を有し、「相対的な多さ・少なさ」を表わす。
- ③「多くの」と「たくさんの」では前者が一定数量の「大部分」を表わすのに対し

て、後者は「概数的多さ」を表わす。

- ④「少ない」と「少しの」では前者が「相対的な少なさ」を表わすのに対して、後者は「絶対的及び部分的少なさ」また「概数的少なさ」を表わす。

## (2) 叙述用法

「多い」「少ない」は叙述用法では極めて自由に用いられるのに対し、「多く・たくさん・少し」は叙述用法としては用いられない。したがって、「多い」「少ない」の意味範囲は連体修飾語的用法に比べて拡大し、「相対・絶対」等の制限は取り払われる。

以上、「多い」「少ない」をアンケート調査の資料をもとに、その類義語との関係を意味論的・統語論的に分析した。まだ解決できていないところもあり、今後の課題としてさらに研究を進めていきたい。また、「多い」「少ない」について、不定数量表現だけにとどまらず、「広い」「狭い」(面積)や、「重い」「軽い」(重量)などの形容詞との関連も探してみたいと考えている。

[後記] この小論は平成7年度長野県ことばの会研究発表会(松本中央図書館)において口頭発表したものに加筆したものである。発表では「多い」「少ない」と「大きい」「小さい」との関係についても考察したが、この部分については紙幅の都合で割愛し、稿を改めることとした。小論に対しご指導のことばを賜りたいと思う。なお、小論作成にあたり、フェリス女学院大学教授馬瀬良雄先生に懇切なご指導をいただいた。記して厚く御礼申し上げます。

## [注]

- 1) この小論に用いた資料は、広島女学院大学及びフェリス女学院大学学生から得たものである。「多い」「少ない」などの調査票は紙面の都合上省略した。なお、調査方法については次の通りである。調査は50人を対象に行った。調査文を「使う」場合には○を、「使わない」場合には×を、「分からない」場合には△をつけてもらった。資料の処理にあたっては、全体の3分の2以上の○を「使える」とし、有効文として無印とした。3分の1以下の○を「使えない」とし、非文として\*で示した。そして3分の1以上、3分の2以下の○を?で示した。

- 2) もっとも、32) も「より多いのとより少ないのとどっちがいい」のように考えれば、「比較の基準」を内包していると見ることができる。
- 3) 「ほう」の解釈としてここに示した前者の考え方については、仁田 (1980) に類似の考え方のあったことを最近知った。
- 4) 仁田 (1980, p. 244~246) には、「近い」「遠い」についても併せて述べられていたが、本稿とは直接関係がないためここでは随時省略した。また、印刷の都合上、例文番号は論考では数字を○で囲んであるが、ここでは ( ) で囲んだ。
- 5) 馬瀬良雄先生を通して仁田論文 (1980) の存在を知ったのは、3) でも述べたようについ最近のことである。「多い」「少ない」に関するアプローチの仕方は、互いに似ている部分があり、また使用されている例文の中に、私が調査文として使用した例文と酷似するものがあり大変驚いた。仁田論文にもう少し早く気づくべきであったという思いがする一方で、それを参照しなかったがゆえに仁田論文とは異なる見解を出すことができたとも思う。それはそれとして、この論文は、私が考察をさらに進めるにあたって大変有益だった。

#### 【参考文献】

- 中東靖恵 (1994) 「日英不定数量表現の比較－ ‘many, much, few, little’ ; 「多い」「少ない」を中心に－」1993 年度広島女学院大学文学部英米文学科卒業論文
- 西尾寅弥 (1972) 『形容詞の記述的研究』秀英出版
- 仁田義雄 (1980) 「「多イ」「少ナイ」の装定用法」『語彙論的統語論』明治書院
- 森田良行 (1993) 『基礎日本語辞典』角川書店

(なかとう やすえ・フェリス女学院大学大学院博士前期課程)